62 吉野山ロープウェイ　ー桜とともに日本ーなのですー

「郡山城の桜がとてもきれいでした」というお手紙ありがとう。冬が寒かったせいか，今年の桜はほんとうにきれいでしたね。このあたりではもう散ってしまいましたが，吉野山の桜はまだ咲いているようです。ここでは，下千本，中千本，上千本，奥千本の 4 地区・3 万本の桜が，下から上へと順に咲いて行くのです。この高低差のある吉野山に観光客を連れて行ってくれるのが日本最古の吉野山ロープウェイです。

「ここにロープウェイを作って，吉野山にやってくるお客さんに乗ってもらおう」と考えたのが，内田政男さん，そのとき，周りの人たちは「空中を走る乗り物なんてとんでもない」と大反対，協力する人はいなかったそうです。内田さんはこれにめげず，資金を集め，「千本口」から「大峰山」までの路線の免許を申請しました。けれども，許可が出たのは「千本口」から「吉野山」までの 349m だけでした。早速，工事を始め，昭和 4 年 3 月 12 日に開業しました。おじさんが生まれる 7 年前のことです。このときの運賃は 15 銭（0.15 円），その頃，はがきが 1 銭 5 厘（＝1.5 銭）ですからはがき 10 枚分の値段，今だと 500 円です。

おじさんが話を聞きに行った 2 月の寒い日，内田さんのひ孫だという社長さんが詳しくお話ししてくださいました。このロープウェイは 4 線交走式で，支えるロープが 2 本，引っ張るロープが 2 本合計 4 本

です。交走式というのは 2 つの客車が交互に動くという方式です。

おじさんが乗せてもらったのは 1 号車・かえで，床が階段になっています。面白いですね。発車のベルが鳴り動き始めました。でも運転士さんがいません。運転は吉野山駅でしているのです。

吉野山駅で運転台を見せてもらいました。左側のノッチを入れると，大きなモーターが回り始めロープを引き上げます。右側はブレーキです。登る人の多い朝はしっかりモーターががんばります。下っていく人の多い夕方はブレーキが活躍します。朝と夕方では運転に違いがあるというのが面白いですね。

このロープウェイは秒速 2m，1 秒に 2m 走るのです。100m では 50 秒，亜矢ちゃんの勝ちですね。でも，上の吉野山駅は下の千本口駅より 103m も高いところにあるんですよ。1 階が 3m とすれば，なんと 30 階以上，こんな屋上までの競争，これには負けますね。

さて，この日本一古いロープウェイですが，戦争中には「兵器を作る材料に，鉄塔などを供出してください」と言われたそうです。でも，内田政男さんは「これは自分の子どもと同じぐらい大切なものです。ぜったいに出すわけにはいきません」と断ったそうです。そして，今もお客さんを運び続けているのです。

（平成 24 年 4 月・小学校 1 年生の亜矢さん宛て）

スポットの案内

吉野山ロープウェイ千本口駅は，近鉄吉野線の終点・吉野駅から歩

いてすぐです。ここから，上の吉野山駅までは大人 350 円，子ども 180 円です。

理科のワンポイント「ロープウェイ」

空中を渡したロープに吊り下げた機器に人や貨物を乗せ，輸送する交通機関のことを索道と言います。これにはロープウェイやゴンドラリフトのほかスキー場にあるようないす式のリフトが含まれます。

ふつう，ロープウェイと呼んでいるものにもいろいろな仕組みのものがあります。まずは複線と単線です。と言っても鉄道の場合とまったく意味が違います。複線とは搬器（人や荷物を運ぶためにつりさげられている機器）を支えるロープとこれを引っ張るロープが別になっているものです。すなわち搬器が太いロープにぶらさがり，これをもう 1 本のロープが引っ張っているものです。単線はつりさげるためのロープ自体が動いているものです。

走行の仕方では交走式，自動循環式，固定循環式に分けられます。交走式は井戸で使われている「つるべ」や山の斜面を走るケーブルカーのように 2 台が交互に動き中間点ですれ違います。次は自動循環式です。これはロープ（索条）が高速で動いていて停留場にやってくるとロープを離し，別の装置でゆっくりと動かされます。乗降が終わるとロープをつかみスピードを上げます。長野県白馬村の八方尾根でこれに乗ったとき，どうしてスピードが変わるのだろうと，一生懸命に見つめたことを思い出します。さらに，固定循環式があります。これは一定間隔で搬器が吊るされているものでスキー場のリフトがそうです。これは乗降のときも同じ速さで動いていますから，跳び乗り，跳び降りをすることになります。

ロープウェイやゴンドラリフトは見晴らしが良く足元に広がる景色を満喫できる乗り物です。でも，一度は停留場に着いたときに「どうなっているのかな」とじっくり観察してみてください。